

第2章 理想の街にむけて

1 行動計画と数値目標

「理想の街」の実現に向けた各プロジェクトの具体的な活動内容について、行動計画と数値目標（第五次長野市総合計画及び第二次長野市環境基本計画後期計画と同じ数値目標を含む）を設定しました。また、国連が提唱する「持続可能な開発のための2030アジェンダ（SDGs）」の目標を反映させ、どの行動計画等がSDGsに該当するかを示しました。

【行動計画・数値目標】



ながの環境パートナーシップ会議			
目標	市民・事業者・行政のそれぞれが適正に役割を分担しつつ、対等の立場で協力して、環境保全活動に取り組めるようにし、地域から地球に広がる環境保全活動を推進することにより、良好な自然環境と生活環境を将来の世代に引き継ぐこと		
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・新アジェンダの推進、進捗管理 ・ながの環境パートナーシップ会議と各プロジェクトの連携強化により、「つなぐ」「伝える」「行動する」活動を充実させる。 ・市民、事業者、行政との役割分担の協働事業の推進 ・新規会員の入会促進 ・次世代を担う子ども達等を支援するとともに大切な資源の有効活用と環境負荷の低減を図るため、フードドライブや信州こども応援ドライブに協力する。 		
数値目標	指標	現状：平成28年度	目標：平成33年度
	ながの環境パートナーシップ会議への参加者数 (年間・延べ人数) ※第五次長野市総合計画及び第二次長野市環境基本計画後期計画と同じ数値目標	4,112人	4,700人 ※各プロジェクトの目標値の合計と一致しません。
	ながの環境パートナーシップ会議の環境保全に関する取組件数 (年間取組件数)	238件	400件
	プロジェクト実施件数 (年間実施件数)	10件	15件



I-1 聖山自然復元プロジェクト			
目標	平成 21 年度末をもって閉鎖となった長野市大岡の聖山パノラマスキー場の跡地を、地域の環境に適合した植生に復元し、伝統的土地利用を考慮しながら CO2 吸収源の拡大と、ボランティアによるネットワークを構築する。また、伝統的な農業を守り続けることで聖山を含めた里山の保全を推進していく。		
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・信州大学の学生に周知して活動への参加を促す。 ・大岡小学校のみどりの少年団に呼びかけて、世代間交流と協働活動の場をつくる。 ・大岡地区住民の集まる場で活動の紹介をして、地区住民の意識の向上を図る。 ・環境団体の情報交換の場を活かして、市民や県民の活動への理解を深める。 ・活動の輪を広げるため、リーフレット等広報手段を活用して市民や県民に配布する。 ・農業体験を通じて、次世代の若者に里山の大切さを伝える。 		
数値目標	指標	現状：平成 28 年度	目標：平成 33 年度
	プロジェクト参加者数 (年間・延べ人数)	60 人	100 人
	森林再生整備済面積 (目標年度までに整備する面積)	ブナを育苗中	3,000 m ²



I-2 市民の森づくりプロジェクト			
目標	四方を山に囲まれた長野市には手入れされた里山があり、そこには多様な動植物が暮らす豊かな森がある。多くの市民は、この里山を利用し、楽しみ、未来につなげる自然の大切さについて学ぶことができる。そういう森を造っていく。		
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・「市民の森」を楽しく利用しながら、森林整備、林業体験、自然観察会、山遊び、学習会を企画・実施し、市民に広める。 ・「市民の森」を市内に複数設置するための調査、折衝などを行う。 ・多くの他団体や、個人、事業者との連携を図り、事業を展開する。 		
数値目標	指標	現状：平成 28 年度	目標：平成 33 年度
	プロジェクト参加者数 (年間・延べ人数)	684 人	900 人
	「市民の森」の設置数 (目標年度までに設置する数)	1	2
	「市民の森」として整備する面積 (目標年度までに着手する面積)	4.5ha	10ha



I-3 小生物の育成環境保全プロジェクト			
目標	<p>身近な自然環境を守り後世に残すため、里山の小生物（オオムラサキ・メダカ・クワガタ・カブトムシ）など生育しエドヒガン・ヤマモモが咲く豊かな自然環境の保全を目指すとともにオオムラサキ以外の小生物（ジャコウアゲハ・キアゲハ・アサギマダラ等）の生息環境を作る。また、松代城を中心に1,000本桜作戦を推進し「カトコヒガノサクラ」をしのぐ松代全体を「マツロベエエドヒガン」で覆い尽くす環境を目指す。</p>		
行動計画	<p>これらの計画を推進するため竹ノ入の外來植物ニワウルシの除伐を進めるとともにオオムラサキ以外の蝶を呼び込むためアサギマダラ・ジャコウアゲハ等の食草フジバカマ・ウマノスズクサの植栽を進めて行く。また、エドヒガン桜の育苗・植栽事業も押し進めていく。</p>		
数値目標	指標	現状：平成28年度	目標：平成33年度
	プロジェクト参加者数 (年間・延べ人数)	610人	1,000人
	各種事業やイベントの開催数	5件	10件



I-4 ぼんすけ育成プロジェクト	
目標	<p>里山に生息する絶滅危惧種の多くは、市街地の開発された平野部に生息していた身近な生き物であった。つまり、開発によって生息場所を追われ、里山にかろうじて生き残っているといえる。過疎の進行した里山で絶滅危惧種の保全の問題を解決することは難しい。ぼんすけ（シナイモツゴ）をシンボルとして、里山の役割と現状を市街地住民にも知ってもらい、里山と市街地の市民が保全目標の共有を図る。</p>

行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・シナイモツゴ観察会の実施 ・ブランド農産物（米・リンゴ）の栽培と販売 ・ため池調査（シナイモツゴの生息調査含む） ・ため池管理と外来種駆除による自然再生 		
数値目標	指標	現状：平成 28 年度	目標：平成 33 年度
	プロジェクト参加者数 （年間・延べ人数）	190 人	450 人
	各種事業やイベントの開催数	11 件	15 件



	1-5 ゴマシジミ保護・育成プロジェクト		
目標	<p>浅川地区ではくまちづくり計画により希少野生動植物「ゴマシジミ」の保護活動を実施するため専門チーム（20 チーム）を立ち上げていた。平成 28 年 4 月 25 日付で長野県希少野生動植物保護条例に指定されたことにより本チームのもと浅川地区に生息する「ゴマシジミ」の保護、回復を促進するため、地域ぐるみによる保護活動に取り組み生息環境の保全と生息可能域の拡大を目指すこととする。</p>		
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴマシジミの生態等に対する地域住民等への意識の醸成及び普及啓発活動の実施 ・専門家等による講習会及び学習会の実施 ・紙芝居の作成及び上演 ・ゴマシジミの生息地保全活動の実施 ・ワレモコウの育苗により生息地への植栽・保護及び採取の防止 ・ゴマシジミの捕獲禁止の立て看板作成と生息地への設置 ・ゴマシジミ・ワレモコウ保護啓発のため生息地周辺のパトロール ・ゴマシジミの保全活動向上のため生態等の解明と各種調査 ・専門家及び県・市との連携及び情報収集・各種調査への協力 		
数値目標	指標	現状：平成 28 年度	目標：平成 33 年度
	プロジェクト参加者数 （年間・延べ人数）	100 人	450 人
	各種事業やイベントの開催数	3 件	10 件



II-1 生ごみ削減・再生利用プロジェクト			
目標	家庭系生ごみの有効な自家処理方法を策定し実践する。 ・生ごみ堆肥の作製量を増やし、キッズ生ごみ農園に活かすと共に生ごみや一次生成物と堆肥や野菜等との交換事業を行う。また、栽培種を増やすことで応用性を示す。 ・キッズ生ごみ農園クラブの家族会員を増やし運営の充実を目指す。 ・数値目標は、可燃ごみ総量に対する生ごみの割合を 35%に削減する ・キッズ生ごみ農園クラブの独立を目指し、野菜等の販路拡大により自主財源確保を充実させる。このため、メンバー増員が喫緊の課題でもある。		
行動計画	・生ごみ堆肥化による生ごみ減量と生ごみを出さないお料理など啓もう活動（住民自治協と協働して講座などを継続） 展示活動（信州環境フェア・アモーレフェスタなど） ・キッズ生ごみ農園クラブの生ごみ堆肥製造と野菜や花の栽培活動 ・キッズ生ごみ農園クラブの隊員募集活動 ・キッズ生ごみ農園クラブの農業用資材の確保と維持管理の活動 ・キッズ生ごみ農園クラブの運営費確保（収穫祭・軽トラ市など）の活動		
数値目標	指標	現状：平成 28 年度	目標：平成 33 年度
	プロジェクト参加者数 (年間・延べ人数)	563 人	1,500 人
	可燃ごみに占める生ごみの割合	37%	35%



II-2 レジ袋使用削減プロジェクト	
目標	資源を大切にするため、ごみ減量に対して市民が主体的に買い物袋（マイバッグ）を持参する意識を定着させることなどし、レジ袋の使用を減らす。なお、マイバッグ持参率を 80%以上とする。

行動計画	①多くの団体特に学校等（若い世代対象）と連携を取りながら、レジ袋の無料配布中止に向けて取り組む。●協力事業者との連携●県・長野地域振興局との連携●小規模店舗への推進（対象の検討、働きかけ） ●市民団体との意見交換会 ②レジ袋使用削減の意識啓発を進める。●店頭啓発の継続（啓発用グッズの確認作成、10月強化キャンペーン）●イベントでの意識啓発●持参率調査●協力市民団体の拡大●地域商店会との連携（啓発ステッカー等の配布）●協力小売店にステッカーの配布 ③環境学習の推進●マイバッグふえすたの開催		
	指標	現状：平成28年度	目標：平成33年度
数値目標	プロジェクト参加者数 （年間・延べ人数）	308人	300人
	マイバッグ持参率 ※第二次長野市環境基本計画後期計画と同じ数値目標	65.5%	80%



	III-1 太陽エネルギー普及促進プロジェクト		
目標	資源を大切にし、再生可能エネルギーである太陽光発電増やし 持続可能な街にする。特に今後、太陽光発電と耕作放棄地の有効活用を目指すためソーラーシェアリングを推進する。		
行動計画	耕作放棄地のソーラーシェアリングが可能か更に勉強して視察をし、市農業委員会と市環境保全温暖化対策課の皆さんにも理解を深めたい。また、市民等を対象にしたソーラーシェアリングの勉強会を開催する。		
数値目標	指標	現状：平成28年度	目標：平成33年度
	プロジェクト参加者数 （年間・延べ人数）	300人	650人
	イベントや出前講座数	1件	10件



III-2 ながのカーボンオフセットプロジェクト			
目標	1 事業(排出量仲介事業+オフセットプロバイダー)制度設計、 2 協働メンバー(事業者・団体)の拡充		
行動計画	1 チーム会議を通じて、制度設計を図る。 2 広報活動を通じて、協働メンバーを拡充する。		
数値目標	指標	現状：平成 28 年度	目標：平成 33 年度
	プロジェクト参加者数 (年間・延べ人数)	4 人	30 人
	協働メンバー数(制度利用者数)	一人	1,000 人
	CO2 削減量	－ t	100 t



III-3 子どもの環境学習支援プロジェクト			
目標	子どもエコクラブでは主に小学生が親と一緒に活動し、中高生になったら「ユースクラブ」で自主的に環境活動を行い、支援してくれる市民や企業などの環境団体との連携が図れているまちを目指す。		
行動計画	国際ユース環境会議を開催する中で、中高大学生からなる「ユースクラブ」を結成し、支援の仕組みを構築する。		
数値目標	指標	現状：平成 28 年度	目標：平成 33 年度
	プロジェクト参加者数 (年間・延べ人数)	254 人	500 人